

令和8年4月15日
農 林 水 産 部

報道機関各位

**～さくらんぼを絶対に成らせよう～ さくらんぼ結実大作戦！
人工受粉等の結実対策の徹底について**

さくらんぼは、現在、開花期を迎えています。

今年は、訪花昆虫として、多くの生産者が導入しているマメコバチの個体数が全体的に少ないことに加え、凍霜害の影響で雌しべの枯死が見られるため、例年以上に結実対策を徹底する必要があります。

そのため、今後の結実対策技術について、別添のとおり資料を作成しましたので、広く報道くださいますようお願いいたします。今後も生育状況に応じて、さくらんぼの高品質安定生産に向けた情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

記

- **資料の内容** 「絶対成らせる」さくらんぼ通信<結実対策特集号>
- **公開先**
 - ・山形県農業情報サイト（やまがたアグリネット）への掲載
 - ・さくらんぼ生産者への配布（SNS等でも情報発信）



←山形県農業情報サイト
掲載ページはこちら

【問い合わせ先】

農林水産部農業技術環境課
農業DX・技術普及推進室
副主幹（兼）室長補佐 矢野 真二
電 話 023-630-2446

【広報監】

農林水産部次長 小泉 篤



いいもの成らせるさくらんぼ便り

「絶対成らせる」さくらんぼ通信

Vol. 5 今年も人工受粉必須！！



- ◆ 来週までが今年のさくらんぼの山場です！
- ◆ さくらんぼを成らせることができるのは今だけ！受粉しないと今年も成らない！晴れ間を逃さず、**3回以上**受粉する！

1 4月9日未明の降霜で雌しべの枯死が発生！

・園地間差大！まずは自園地の状況を確認しよう

【被害がみられた園地での雌しべの枯死の発生状況】

〔佐藤錦〕 少ない園地で2割、多い園地で8割、〔紅秀峰〕 少ない園地で2割、多い園地で7割



正常 霜害を受けた雌しべ



霜害を受けた雄しべ



霜害を受けた花

2 結実対策

◆ 今年も例年になく結実しにくい 何かしないと今年も成らない！

- ⚠ マメコバチがない
- ⚠ 小花数が少ない
- ⚠ 凍霜害が発生

どの作業よりも人工受粉作業を最優先

+ 防風ネット・切り枝の設置

こんな園地は
晴れ間を逃さず
何度も受粉

- 霜害（雌しべの枯死）が多い園地
- 摘芽を行った園地
- 受粉樹が少ない園地
- 受粉樹と開花期が合わない園地

必ず3回以上人工受粉

(1) 人工受粉

【今年のポイント】

☆ 霜害にあった園地は正常な花を狙って受粉

- ・ 腹側（下向き）の花
- ・ 樹の高いところの花

重点的に受粉



枝の腹側の花を重点的に受粉

☆ 開花が早い花は、正常な花が少ない可能性があるため、「満開期～開花期後半」を重点的に受粉（今年は満開後にもう1回受粉！）

◆毛ばたき受粉

- ・ **花が乾いていれば、いつでもOK!**
- ・ 実施回数が多いほど効果が高いため、晴れ間を逃さず何度も実施
- ・ 受粉樹を撫でた量の3倍程度受粉可能
(例：受粉樹の主枝を1本撫でたら、交配樹の主枝を2～3本受粉できる)



回転させながら花粉を付ける

◆採取花粉を用いた受粉

- ・ 受粉樹から「風船状～開花直後」の花を摘み、開葯・希釈して使用
(開葯翌日から使用可)
- ・ 「ぼんてん」を用いる場合は、開花直後の花をねらって受粉する



正常な花をねらって受粉する

(2) 切り枝の利用

- ・ 開花直前の太めの枝を使う
- ・ 水揚げを良くするため、水差し時に切断面を切り戻す
- ・ **受粉樹が少ない場所、受粉樹から遠い場所に多く設置**



バケツ等に受粉樹の切枝を差す

(3) 防風対策

- ・ 風当たりの強いところでは、**防風ネット(目合い2mmまたは4mm目を二重)や古ビニールを風上側に設置**
※ 降霜時はネットや古ビニールのすそを上げておく

(4) 灌水

- ・ 花前花後は**たっぷり灌水**(開花期間中に乾燥した場合も灌水)
- ・ 灌水の目安は**20t/10a(20mm)程度**
(灌水設備がない場合は、樹冠下だけでも灌水)

3 「開花期防除」は適期を逃さず実施!

- ・ 開花直前、満開3日後の防除を遅れず実施
- ・ 雨が予想される場合は前倒し**(防除は雨の前が基本)**

◆「やまがた紅王」「紅秀峰」は雌しべの寿命が長いため、開花期後半も入念に受粉し、確実に成らせよう!

◆高温の影響で生育が進み、作業が集中してきています。忙しいときこそ安全第一! 農作業は気もまず焦らず計画的に。

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課
TEL 023-621-8291 TEL 0237-86-8301 TEL 0237-47-8631

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会(事務局:農林水産部園芸大国推進課・農業技術環境課)



絶対成らせるさくらんぼ通信



【豆知識】訪花昆虫利用のポイントについて

- ◆ マメコバチの数が全県的に減少しています。
- ◆ マメコバチの飼養管理を徹底するとともに、ミツバチを上手に活用して、さくらんぼを絶対に成らせよう！

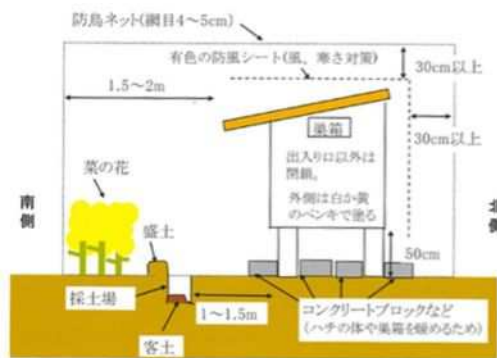
1 マメコバチの飼養管理のポイント

園地環境の整備

- 風上側に防風ネットを設置（ハチの活動を阻害するため、全面被覆しない）
- 開花期間中は下草を除草しない（訪花昆虫の餌源）
- 多様な餌源を確保（さくらんぼに加え、菜の花等を補植）
- 鳥害防止のため、出入口の金網に加え、広めに防鳥ネットを設置
- ドラム缶は夏季に高温になりやすいため、木製の巣箱に更新

採土場

- 採土場は深く掘り（40～50cm）、掘った土を巣箱の反対側に盛土する
- 穴を掘る代わりに、バットに土を入れて設置しても良い（毎朝、必ず給水）
- 保水性が高く、粘土質の強い土（赤土）を使う



■ マメコバチの巣箱の設置例



■ バットを使用した事例



■ ドラム缶は木製の巣箱に更新

2 ミツバチを上手に活動させるためのポイント

- 防風ネットは風上側のみに設置し、ネットのそばに巣箱を置かない
- 巣箱は直射日光が当たらず温度変化が少ない場所に設置（暑すぎたり、寒すぎたりするとハチの活動を悪くなる）
- 設置の際には、巣箱の出入口を南又は東向きに向ける
- 巣箱は地面に直接置かず、コンテナなどの上に置き、巣箱を水平もしくは後方を少し上げておく
- 設置後、10分程度は静置してから巣門を開放する
- 巣門を一度空けたら、移動させたり、方向を変えたりしない
- 巣箱を撤去するまでは、殺虫剤・除草剤を使用しない



■ 巣箱の設置状況